

純心

マリアさま いやなことは私が よろこんで



- CONTENTS
- 1 純心同窓会会長挨拶
純心女子学園理事長挨拶
 - 2 新学長紹介／校長挨拶
 - 3 支部だより
 - 5 きらり卒業生
 - 7 あの先生は今
 - 8 名誉教授のご紹介／決算報告
 - 9 新役員紹介／会則改正

日頃より純心同窓会の運営にご理解、ご協力いただきまして誠にありがとうございます。今年の夏はパリオリンピックが開催。今までの常識を超えたセーヌ川での開会式、逆転劇によるメダル獲得に感動や興奮する日々でした。最後まで夢をあきらめない姿に刺激を受けました。

さて、今年は6年振り令和6年5月26日(日)に純心同窓会(総会・懇親会)をヒルトンホテル長崎で開催致しました。1年前から理事長先生にも相談しながら日程の調整などを行い、交通の便が良いホテルを押さえることができました。

今回の同窓会の案内は、各学年のクラス幹事さんへの往復はがきの他に、ポスター、SNS、フェイスブック、ホームページ等を活用しました。大変嬉しいことに、保育科、社会科第1回卒業の方にも参加いただき、約190名のご参加がありました。特に私達の年代は還暦を迎える節目の年だったので呼びかけやクラス幹事の人々がハギを出してくれました。その為、多くの卒業生が集うことができました。やはり声掛けによる効果は大きいと感じました。

久し振りの友人の再会に、学生時代にタイムスリップし、忘れかけて



純心大学
学長
坂本 久美子

「純心」を生きたる

新学長は、英語とイタリア語の両刀使い、情報技術も巧みでコンピュータを駆使しています。新しい純心大学のリーダーとして最適な人材です。新学長のもとで、新しい純心大学が成長していくと期待しています。同窓会の皆さまにも温かく支えていただきますよう、心からお願い申し上げます。

「すべてに時がある」と聖書にありますが、また、新しい「時」を神様から頂いて純心は新しくなります。

いた思い出話に盛り上がり、友人からも沢山の刺激を受け、楽しいひと時を過ごすことができました。

今年からコーラス部は中学・高校が合同になりました。総会の時には中学生7名が綺麗な歌声を披露してくれました。(夏の制服は現在の写真の通り)中高合同のコンクールでは金賞受賞で九州大会に出場するとの報告がありました。

前日には支部長様と江角記念館での交流会も開催できました。初めて支部長様とお会いしましたが、電話やLINEなどで繋がっていましたので、お会いするのがとても嬉しく、昔からの知り合いだったかのように会話も弾みました。支部長様からも沢山のパワーを頂きました。支部会では人集めの「苦労の話」も出ました。今後は若い人の力も借りながら支部会の活動を応援していきたいと思っています。どうぞ、協力お願い致します。

さて、純心学園も来年度は90周年を迎えます。少子化で学生も減っていますが、同窓会としても、年代を超えての同窓生のつながりや絆を深め、学園を支えて行きたいと思います。また今年からは支部での同窓会も少しずつ開催されるようになりまし

た。お呼びがあれば、新たな出会いを楽しみに私も学長先生と一緒に積極的に参加させていただきたいと思っています。

6年前の同窓会規約で任期が変更になり、今の役員の残された任期も3年となりました。新しい同窓会の理事を募っています。2か月に1度

片岡前学長もそのうちのお一人で、39年にわたり本学でご奉職いただきました。35年間は短大大学の教授として、うち最後の10年間は学長としての功績に対して、教職員一同心からの感謝の意を表することができました。ことは大きな喜びでした。

純心学園創立89年という長い歴史の中で、本学創立30周年を迎える今年、新学長として重い責任を託され、身の引き締まる思いがいたしております。微力ではございますが、同窓会の皆さまをはじめ教職員のお力添えをいただきながら、精一杯努めてまいりたいと存じます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

ところで5月26日には、6年ぶりの純心同窓会総会が長崎ヒルトンホテルを会場に行われ、200名近い同窓生や教職員が一堂に会して、学び舎や友人・恩師を懐かしく思い起しながら、純心精神を分かち合

この標語を自ら実践され、学生・生徒・教職員にその模範を示しておられました。江角先生がこの標語に託した精神とは、犠牲を伴う真の愛の行いです。時代や環境がどれほど変わっても、純心ファミリーにとつて変えられない大切な教育精神とは、「純心」、すなわちマリア様の「汚れない純粋な愛のみ心」に

(第2日曜日10時から12時)江角記念館に集まって会議を開いています。年代、性別に制限はありません。現在5名の役員、11名の理事(男性2名を含む)で同窓会を運営しています。できる範囲で構いませんので多くの仲間を募集しています。希望される方は同窓会室にご連絡下さいね。最後になりますが、純心学園の益々のご発展、同窓生皆様のご多幸、世界平和を願い、挨拶にかえさせていただきます。

純心中高のホームページの画面に「変わる純心 変わらない純心」とありますが、ここ数年の純心中高の発信フレーズです。

今年5月末に「同窓会総会」が開かれ、純心中学校コーラス部が「いのち」を合唱しましたが、4年前に新しく導入した夏の制服(ツーピース)を着用しておりました。新し



純心中学校・純心女子高等学校
校長
佐古 照美

做つて、自分自身のほんの僅かな犠牲を捧げて、愛の心で人と世界に奉仕することです。相手が大切な人、愛する人であればもちろんのこと、見ず知らずの人であっても、優しい愛の心で手を差し伸べる時、互いに笑顔と喜びが溢れ出て犠牲が犠牲でなくなり、むしろ「いやなこと」も喜びに変わります。これが、マリア様の純粋で清らかな心、すなわち「純心」を生きたることを意味します。

ポストコロナの三ツ山の純心大学キャンパスには、学生たちの元気な笑い声や歌声が戻りました。純心復興の地「恵の丘」から、学園創立90年の歴史の重みを味わいつつ、世界平和を願いながら同窓生お一人おひとりのご多幸とご活躍をお祈り申し上げます。

は6年ぶりの同窓会総会が開催され、たくさんの卒業生の方々にお会いすることができました。実社会で活躍される卒業生の皆様方は「奮発心」に満ち溢れておられました。この「奮発心」ということは聖母マリアの数ある諸徳の中のひとつです。創立者は「聖母マリアを教育の理想像としてその諸徳に倣いながら、人間として成長を目指す」という強い教育理念を持つて純心学園を創立しました。その理念は江角ヤス先生によって引き継がれ、現在に至っています。

江角先生は中等教育に続け、高等教育を始めるにあたって、聖母マリアの2つの徳を追加しました。「賢明」と「奮発心」です。社会に出て生きていく学生たちに「賢明さ」と「奮発心」を持つて生きてほしいと願っておられたからでしょう。

江角ヤス先生は聖母マリアの生き方から学び、何事にも全力で物事に取り組みられました。窮地に陥った時には「私はこの学校にいのちをかけてきたのよ」と周りの方々を振るい立たせ、「方」どうにもならないときには祈りなさい。神さまがようにいてくださるわよ。マリア様がとりなしてくださるわよ」とやさしく諭しました。

社会情勢は目まぐるしく変わっていきます。時に予期せぬ出来事に翻弄されることも多々あります。そんな時には、早坂記念図書館壁画の「SEMPER EST BERBUM」・「VIRGINES PRUDENTES」を思い出してください。

純心学園では、今一必要と思

い夏の制服の導入については暑さ対策が大きな理由でした。

加えて来年度からは、スラックス型制服が導入されます。時代の要請に因應してのスラックス型導入となります。制服会社のご協力をいただきながら、生徒と教員がお互いの思いを語り合いながら、デザインを決定していただきました。ボレロとジャンパースカートに合うスラックス型の上着の選択が難しく、最終的には、ノーカラー(県内初のジャケツットで特別感を出せた気がしています)。

純心の制服と言えばジャンパースカート。春秋型においては清楚さが、冬型においては短めなボレロのかわいさが定評だったように思います。これまでのジャンパースカート型もそのまま着用でき、制服の選択の幅が広がったということになります。

ここ数年、このように制服をはじめ、髪型、持ち物など、明確に「変わる純心」が見えてきています。学校敷地内の校舎(冷暖房完備、WiFi完備)もグラウンドも整備され、懐かしく思い出す余地もないくらいに変まりました。また、校則も生徒主体のルールメイキングにより、生徒と教員で意見交換をする機会もとっています。

卒業生の皆様には、今の純心がどのように映っているのでしょうか。そういう中で、学園は今年12月に



われる「人のいのちと向き合う教育」に取り組んでいます。「いのちの学び いのちへの奉仕 マリアの心で」という目標を掲げ、生徒・学生たちと共に「人のいのち」に向き合っています。

今年は学園創立89周年、被爆79周年を迎えます。これまで純心学園を支えてくださったすべての恩人方、先輩方、卒業生の皆様様に感謝しています。

今後とも純心学園の教育にご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新学長ご紹介

片岡千鶴子前理事長より、坂本久美子新学長について次のようなご紹介をいただきました。

坂本新学長は、2000年、2005年の間、ローマ教皇庁立サレジオ大学で神学を学んだ後、ローマ教皇庁立グレゴリアン大学で霊性神学を学びました。帰国後は、上智大学大学院神学研究科で「マリア神学」を専攻し、博士号を取得した神学博士です。博士論文は、「聖母マリアの御心崇敬―歴史的展開とその日本的現代的意義」(教友社、2021年)として刊行されました。上智大学大学院 博士後期課程修了後は、純心聖母会本部での任務の傍ら、長崎純心大学で非常勤教師として教え、2022年度から学長補佐として準備に入っていました。

創立89年目を迎えます。90年目に向けて節目を強く、太く、しっかりとしたものにしていきたいと思い、純心の良さの新旧を確認しながら、中学、高校は純心教育のあり方に取り組んでいます。生徒たちの探究活動にも似た道のりを歩んでいる感覚です。

「変わらない純心」つまり、学園目標「先ず孝行 マリア様 嫌なことは 私が喜んで」、「純心マツチ」、「月訓」、「校章」に込められている意味もなど、変わらない純心の誇りを大事にして参ります。きっと、多くの卒業生が社会人としてあるいは家庭の中で、何かの壁と向き合うことになった時にこの学園目標が頭の中に過り、そこで考え、思い直し、前に進んできたという経験をお持ちではないでしょうか。だからこそ、今在校にいる生徒たちにも心に刻んで卒業してほしい純心精神です。

一昨年、教職員が関わって「純心スピリット」を打ち出しました。「変わらない純心」を今の時代に合わせ言葉をつないでいきました。生徒たちが卒業していくときに身につけているもの、卒業後に振り返りをするものになるように願いを込めています。また、教職員の立場からは育てたい生徒像です。

純心の同窓会の皆様、今後とも、どうぞよろしく願います。



純心同窓会 会長
野濱 玲子
(保33回卒・現福6回卒)

「賢明さ」と「奮発心」を持つて生きよう

同窓生の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。今年の5月26日(日)に



純心女子学園
理事長
山田 幸子



純心学園では、今一必要と思

純心学園では、今一必要と思

純心学園では、今一必要と思

純心学園では、今一必要と思

純心学園では、今一必要と思

純心学園では、今一必要と思



関東支部

支部長 井手 千尋(社22回卒)
新役員の方々によります純心同窓会総会が無事開催されました事心

関西支部

支部長 畑 喜子(保15回卒)
久し振りの長崎

数年前に友人と訪ねた長崎。途中で熊本城の復興を目にし、阪神の震災で皆様に助けて頂いた事の難さを感じ、またラッピングされた路面電車に乗り、通学で乗った緑色の電車を思い出した。長崎に向かいました。長崎駅に着いた時は、新幹線の工事をしていて、以前の改札口まで随分歩きました。そんな事も思いながら、今回は新しくできた新幹線に乗りました。昔、通った海の景色が好きだった。

した。

そのような中、副支部長が直接電話で参加呼びかけを行い、初めて参加の先輩2名と、若々しい後輩1名の参加が決まり、直接の声掛けの大切さを感じました。

また、開催場所を広島で毎回行っているのを、岡山、鳥取でも行えるように、地区をまとめて下さる方がいないかと協力を呼びかけましたが、残念ながらお願いは叶えられませんでした。そのため、今回の支部会は通常の議題に追加して、「高齢となられた会

鹿児島支部

支部長 遠矢 明美(社18回卒)
15年振りの長崎

体調に自信がなく、難敵の熱低もいる。今回はどうしても出席しなければ。欠席続きだった事もあり、何より新しい本部の会長はじめ役員の方々にお会いする為。何とか無事にと出発。

今も鳥栖乗り換え。3分での移動は大変。長崎本線は揺れる。武雄温泉で新しい西九州新幹線に乗り換え、気持ちよい車内で少し楽になってきたと思う間にわずか30分で無事長崎到着。想像以上に駅中も駅前も変化している。夕方、浜の町と新地へ。今日は一人。二人の親友は多分そばに居ると思いながら歩いてみた。やっぱり淋しい。思い出の店で食事して、帰りは路面電車に乗った。

翌日、午前中に総会の会場の下見。近くのなかに迷い、確認できて良かった。午後は文教町の学園の門を久し振りに入る。キヨロキョロしていると丁度歩いて来られた方に江角記念館をお尋ねすると案内して下さった。あとで、新しい学長様とわかりびつくり。

より感謝申し上げます。役員の方々もホットされていらつしやる事と存じます。私、井手は事情により参加出来なくて、非常に残念に思っております。副支部長の原静子さん、高短8回生)が参加して下さいました。

〈原さんの感想〉

総会は若い役員の方々のお力で現代的な進行でスムーズに終わり、感動したとおっしゃっています。世代交代がスムーズに進んでる感じを持たれたようです。支部長会は9支部の支部長が参加され、現状報告等活発な意見交換が出来有意義な時間でした。各支部問題を抱えながらも、同窓会を継続されてる事。関東支部は会員の多さと、広範囲の地域の為課題も多いです。同窓会は純心女子学園の発展に大きな役割を果たす大切なエネルギー源です。世代交代しな事を関東支部が未永く発展する事を念頭におきながら活動しなければと、改めて感じております。

た。トンネルを抜けるとすぐに長崎駅に着きビックリ。
また、駅に着いてからのあまりの変わり様に一度ビックリ。知っていたホテルを探すのにどれだけの人に尋ねたか。

久しぶりに訪ねた学校は土曜日で、学生は居らず、とても静かだった。学長先生、校長先生、会長様、役員の皆様も新しくなられ、時代の流れを感じ、淋しくもあり、また、次世代への期待を感じました。でも皆様方への御苦労には感謝いたします。本当にありがとうございます。

総会の場では、沢山の方が参加されましたが、同級生や知り合いの姿が見られなかったのには、少し寂しさを感じました。

ところが、初めてお会いする方々であつても、年齢差があつても、純心学園で学んだ仲間、懐かしい校歌を歌い始めた時から、近況報告や昔話の中で、本当に和気あいあいと、何歳になつても純心学園で学んだ仲間と

中に入ると、会長の野濱さん。初対面で名刺をいただき中へ、懐かしい支部長さん。初対面の支部長さんがお揃いでした。楽しいお話しがありがとうございました。出席できて良かったです。ゆっくり学園内を歩きかけたのが心残り。帰りのタクシーで同乗の福岡支部長さんと寮の先輩の話しになり、総会で会えることになり楽しみです。翌日久しぶりの総会。朝から体調不良でひどい吐気がおさまらない。ドタキャンするわけにはいかな。下見して良かったのですぐに会場に着いた。体調を気にかけて下さった方に、「多分熱低が動いたと思いますよ」と答えた。やっぱり台風1号の発生だった。また当たり。同級生には、一人も会えなかったが、卒業以来初めて会う先輩だ。思わず名前を呼んでしまひ嬉しかった。しばらく立ち話で大盛り上がり、総会が始まった。議長は男性。初めて。今はそうなんだ。盛会でスムーズに終了。立食パーティ。若い方々賑やか。先輩と話し、会いたいもう一人の先輩に電話してもらい、ゆつくり話して嬉しかった。なぜか慌てて二人の連絡先を聞いていない。いつかまた。一日繰り上げて帰ることに。話したかった懐かしい方々と話さずバタバタ。帰りはもちろん博多経由。駅中だけで懐かしむ。

最後になりましたが、野濱会長はじめ役員の皆様総会に向けてお力をお貸し下さいましたたくさんの方々に心から御礼申し上げます。ありがとうございました。

中部支部

支部長 山下 弘子(保26回卒)
純心同窓会に寄せて

私は朝一番の飛行機に乗り、心わくわく紫陽花咲き誇る長崎へ6年振りに開催される純心同窓会に向けて、支部長と役員の方々との顔合わせが江角記念館でありました。

役員の皆様が温かく出迎えて下さり、ホームに帰ってきたと強く感じました。坂本久美子学長様や佐古照美校長先生もお忙しい中、にっこり笑顔で私達を包んで下さり、新しくチェ

感じました。でも、学長様とは同席で、楽しいひと時を過ごしました。懐かしい校歌を歌って下さった学生の服も、色々デザインがあり、髪型も自由。まさに現代子、令和の子というイメージを感じました。

次の日は時間を作ってくれた友人が市役所に連れて行ってくれました。新しい市役所から見ると市内の景色や昔、歩き廻った場所。「アリの街のマリ」の劇に出た時の会場、浦島太郎の様な気分になりました。屋上で先輩のグループに会い、学生の頃やお世話になった先生方の話しで盛り上がり、時間の早さを感じました。純心という、学園で過ごした8年間、私にとっては第2の故郷です。また訪ねた

して一瞬で連帯できる事を感じ、お別れするのが寂しくなるような名残惜しさを感じる楽しい会となりました。

福岡支部

支部長 湯浅 静子(保14回卒)

真つ暗の車窓にどしゃぶりの雨がたたきつける。思い返せば急ぎ足だった。それでも無事で何よりほつとしていた。心残り沢山だ。またゆつくり味わって行きたい。

久しぶりに福岡から長崎純心学園を訪れました。マイホームに帰ってきた。気持ちになり、感無量になりました。支部長会議では、室内の前通路に立たれたマリア様に迎えていただき涙があふれてきました。受付で、野濱会長様、役員の皆様にあたたかく迎えていただき会議に参加しました。会議参加時は、少し緊張感がありましたが、各支部長さんからは、同窓会を開く為の手段として、まずは数人で集まり交流を深めることで、同窓会開催実現につながっている等、とても楽しい雰囲気の中で報告されて、笑いの絶えない報告会となりました。私からは、以前実行したバスツアー同窓会等話を話して、その後はとんど活動できて

ンジし、歩み出していることを実感しました。各支部長さん達は後継者不足を口々に語られながらも、とても元気な様子。純心で過ごした学生時代のことや、寮生活でのエピソードを愉快にお話しされ、和気あいあいとした雰囲気とても温かい心とむむと時でした。

次の日、長崎駅に隣接するビルトンホテルで総会、懇親会には190名の方が出席。純心同窓会の偉大さと温かさを感じました。今年3月末に純心大学の学長を退任された片岡瑠美子先生にもお逢いできました。これまでも何度も中部支部へ足を運んで下さっており、にっこり笑顔でもお元気な様子に触れ、大変嬉しく思うと同時に、今年7年振りに開催予定の中部支部同窓会に是非出席してほしいなと私の心にスイッチが入った瞬間となりました。

懇親会では、純心中学生の清らかな歌声が響きわたり、「いのちの歌」に涙があふれました。私は幼稚園勤務時代の先生方と6年振りに再会を

と思います。
関西支部の会も、中学生、高校生等の名簿も届いていますが、なかなか連絡を取る事ができず、申し訳なく思っております。コロナ等で支部会もできませんでしたが、今年は9月28日(土)に神戸の方で開催したいと思っております。学長様と会長様が出席して下さいます。初めてなので、楽しみにしております。

参加ご希望の方は、9月中旬頃に、畑まで連絡をください。詳しい事や予定をお伝えできると思っています。電話078-1842-16268(夜遅い方が有難いです。)

いない現状があり、今後福岡支部の同窓会実現に向けて行動していくことを、新たに決意することになりました。翌日、ヒルトンホテルにて総会開催でしたが、議事進行から交流会まで、とてもスムーズに進み、企画された事等、満場一致にて決議されました。野濱会長はじめ役員の皆様のご尽力の賜物だと思えます。感謝申し上げます。その後創立者江角ヤス先生への熱い思いを聞かせていただき、学園創立90周年に向けて、学園運営、教育に情熱を燃やされている学長様はじめ諸先生方へ感銘を受けました。57年前保育科に在籍して、2年間短大の寮に入りました。親元を離れて不安な気持ちでしたが、いつもシスター先生方に寄り添っていただき、楽しい学園生活となりました。今では、私の人生にとって一番の宝物です。今回純心を訪れて懐かしい思い出が沢山よみがえってきました。

今後、自分の余生を考え、これからの心の支えにさせていただきます。先の大戦にて、被爆された江角ヤス先生はじめ純女学徒隊の皆様方の無念の思いに心えられるようお祈りをささげたいと思います。これから私にできることを、日々微力ですが努めてまいります。ありがとうございました。

佐賀支部

支部長 木下 秀美(社5回卒)

五月晴れの素晴らしい天気恵まれ、1日目の支部会、2日目の総会に無事有効に、又楽しく出席出来ました事、本当に幸せを感じました。前日の支部長会も、コロナの関係で、ここ数年今までの様に活動することもなかった様ですが、それなりに各支部長さん方々の活動ぶりに、楽しく面白く

喜び合ひ、思い話しに花を咲かせた盛り上がり。どのテーブルからも笑顔の花が咲きこぼれていました。会の最後は心を1つに学園歌を大合唱。大感動の素晴らしい1日になりました。是非、皆様も同窓会へ顔を出し、純心パワーを感じて欲しいなと思いましたが、とても立派な会で、純心万歳と感ずる会でした。企画準備して下さった長崎本部の役員、理事の皆様本当にありがとうございました。

中部支部では今秋(9月11日)に純心同窓会中部支部会を開催します。今回は純心聖母会名古屋修道院のシスターのお力添えで五反田教会に集い、その後会食。長崎を懐かしみ和やかな時が過ごせるというと思っています。長崎からはお忙しい中、坂本学長先生、片岡瑠美子先生、本部から会長野濱様と副会長馬場様が出席して下さいます。心わくわく楽しみにです。沢山の方が純心同窓会に出席して下さいることを祈って、皆様と出合えることを願っています。

広島・岡山・鳥取支部

支部長 川口 孝子(高23回卒)

今年の4月20日に6年ぶりの支部会を開く事を役員会で決定し、3月に「広島・岡山・鳥取県」の支部会員92名へ案内状を出しましたが、ご出席者は5名だけで、非常に寂しくがっかりした返信結果となりました。

毎回ご参加だった方が体調不良で欠席や高齢になられて体力に自信がない方、大阪のご家族の元へ転居された方等、6年の歳月による同窓会会員のさまざまな状況の変化を実感し、改めてコロナ禍を恨めしく思いま

笑いのうちに、あつという間の数時間でした。

いよいよ待ちに待った総会。理事長先生、学長先生、校長先生方をお迎えしての有意義な総会でした。米寿を迎えた私にとりまして、年齢も忘れ、若々しい後輩と共に過ごした数時間は本当に、純心姉妹そのものと改めて喜びを感じました。

私達佐賀支部は、コロナの前年に支部会を開催致しました。一応9月に入ってから、今回の総会の報告会を致す予定です。その折りに次回の支部会の件について話し合う予定です。

昨年10月佐賀県支部を代表して、鹿児島純心学園の見学に後輩の前役員の方々と行ききました。校庭からの雄大な桜島の姿は本当に素晴らしい眺めでした。でも校庭にはいつも火山灰が絶えないとの事、ほんとに何とも言えない足元でした。校内も立派に整っていて、土曜日でしたが、広い体育館では、新体操の練習に頑張っていた様です。夜の祈りの後全員の前役員の方々と会話を。和やかなひと時でした。先生方も皆様明るく、色々な話で盛り上がりました。佐賀出身の先生方もいろいろと、本当に懐かしさと嬉しさで胸いっぱい。翌日の日曜日には、鹿児島カテドラル、ザビエル教会に行き、色々沢山の事を学ぶ事ができました。最後の最後まで、無駄のない東先生、永田先生の案内で、楽しい泊2日を過ごすことが出来、素晴らしい思い出が出来ました事、心より感謝しております。

どんなことがあつても、大切な1本の純心マツチ。小さな炎は、いつまでもいつまでも絶えることなく純心姉妹でいたい。ICM聖母のけがれなき心、即ち「純心」と言う名に恥じることなく、手に手を取っていつまでも、純心マツチの姉妹でいたい気持ちでいきたいと思います。



生かされるということ



高26回卒
佐藤 久美子

いつの間にか気づいたら、「もうこんな年齢になっていた。」という今の自分です。これまでの自分の歴史を振り返ると、たくさんの人や教え子たちと出会ってきました。それは、純心での体操との出会いが、今の自分の人生に繋がっていると思います。小学校の教員になり、たくさんの方を学びながら、校長としてがむしゃらに、夢に向かって進んできたのです。男女平等。しかし、その中で男女に関係なくできることは「自分らしさ」であると常に思っていました。

校長としての職務の中、県体操協会や県スポーツ協会の仕事も進めてきました。「責任」というプレッシャー

を負いながらも「自分ができること」に繋ぎました。「長崎ゆめ総体」「長崎国体」も県体操協会の副理事長、審判長としてかわりながら人との共働を学んできたと思います。

校長として「九州学校体育研究発表会」の体育部長としてやり遂げ、最後の3年間で、自分の学校で「県指定・市指定の体育研究発表会」をしてきました。教職員とのチームワークで成功し、全国表彰を受けることもできました。このことは、自分の力だけではなく、出会った周りの方から「生かされたということ」でした。

前を向き、自分一人ではできないことを、たくさん支えられながら、前進し、挑む気持ちをもちながら、繋いできたのです。

現役退職してから、現場で自分ができることに取り組んでいます。レジンドとして、立場は違っても「女優」が色んな役をするということと同じように、困っている子、悩んでいる先生や保護者に少しでもアドバイスをしながらか「出会って良かった」という声を聞き、自分自身もとても生きがいになっています。また、純心中学・高校の体操部の指導もさせていただいています。純心魂は、令和の時代にも受け継がれているのです。

町中を歩いていると、「先生」という声を聞きます。マスクをしていても、40代になった教え子や最近の10代の子供たちからも近寄られて話をします。

「生かされるということ」は、周りも「生かしていくこと」であると感じています。どこまでできるかわかりません。

います。

現役で居られる時間はもう長くはありませんが、いつの時間でも、等身大でできることを続けて行きたいと思っています。

学園での学びが礎に



保35回卒
真奈美

今年度より、純心同窓会理事を務めることとなりました長崎県議会議員、ごうまなみと申します。学園に恩返しができると思っております。

私と純心学園をつないでくれたのは「バスケットボール」でした。中学の先輩が純心高校バスケットボール部で活躍していたこともあり、私もバスケットをするために学園の門をくぐりました。顧問の舟越先生には心技体を鍛えていただきました。早朝練習に始まり、放課後の練習、帰宅してからも夕食後に自主練習を繰り返していましたが、なかなかレギュラーになれない日々が続く挫折を味わったのもこの時期です。人生を振り返ってみると高校時代の3年間で一番頑張った時期だと思っています。「開志なき者は去れ！」バスケットボール部の部旗に刻まれた言葉は社会人になってからも私の中心にあります。

せんが、終活を終えたときに、悔いが残らない生き方で精いっぱい自分ができてることをやり遂げていきたいと決意しています。純心魂は心に生き続けています。

好きなことをやれる喜び



高29回卒
作曲家
大島 ミチル

この度は会報誌「純心」への原稿を書く機会を頂きました。純心高校を卒業して、もうかれこれ45年が経ちました。それでも私にとって長崎で生活した時代は「自分を作る時代」であり、それが今、大きな支えとなり、血となり肉となっているのを感じます。私は長崎原爆病院で産まれ、最初の住まいは住吉。姉と弟と3人姉弟でしたので、いつも一緒に遊び、習い事も一緒に通っていました。最初の習い事は2歳に始めた絵画教室でこれは小学校いっばい続きました。親としてはあまりにも家中の襖に落書きをするからとの理由だったようですがとても楽しかったのを記憶しています。それから2年後くらいには音楽教室に通い始めました。幼稚園の授業が終わるとその場が音楽教室になり、姉が習っていた時に私があまりにも音楽が好きそうだったらしく母が私にも習わせたのです。その頃

カトリックの精神に触れることも初めてのことです「マリア様 いやなこと

は私がよろこんで」という学園標語は常に心の中にあり、物事を選択をする際には必ず口に出している自分もいます。特に、議員になってからは強く意識するようになりました。学園標語の他にも「私は小さい純心マツチ 今に人の世あまねく照らす」と歌っている時もあります(笑)

短大は保育科に進学しましたが保育士にはならず卒業後は放送局に勤務。その後結婚・出産・離婚を経験。授かった息子に障害がありましたので、ひとり親で子育てと仕事の両立の日々の中で在学中に学んだことが大いに役立ち乗り越える力となりました。

「開志なき者は去れ」「マリア様 いやなことは私がよろこんで」「私は小さい純心マツチ 今に人の世あまねく照らす」

学園で学んだこと、いただいた言葉は人生のあらゆる場面で私の支えとなり、自身の礎になっていることを実感いたします。

高校の卒業式に呼んでいただいたことが何度かございますが、式では変わらなないことの大切さが垣間見え、自身が卒業した時と変わらない学園の真実の姿に本当に純心で学ばせていただけてよかったと思います。

最後になりましたが、恩師の皆様を中心により感謝申し上げますとともに、純心同窓会の皆様方、どうか純心で学んだことをともに喜びあい、日々微笑みを絶やすことなく過ごしてまいりましょう。私も卒業生の一員として

の記憶も鮮明に覚えています。子供にとつて「好きな事、嫌いな事」は実ははっきりしているのもので、私にとつての好きな事は幼い頃から「音楽」だったのです。音楽を始めた頃は愛宕の杜宅に住んでいました。稲佐山が正面に見えて、夕焼けも夜景も美しく、裏には公園があつて、屋上もあつて、近所の子供と駆け回り、バレーボールをしたり、いつも運動をしていました。小学校から中学校の初めまでは「ねずみ島」の水泳教室に夏休みのほぼ毎日通っていました。

また書道教室にも通っていました。こいうやつて書くとき改めて思うのですが、この「絵画教室」「運動」「音楽」「書道教室での集中力」が今の私を作ったのです。映像音楽の作曲を仕事にしている私は視覚からくるものに敏感に反応し、その色彩や形からインスピレーションが湧いてきます。毎日かけっこをしたり「ねずみ島」で泳いでいた事で身体はとても丈夫で健診に行ってもどこも悪くありません。そして大好きな音楽を仕事に出来ている喜び：そして純心高校で学んだ思いやりやマナーは世界中どこに行っても自分自身の、それから日本人としての誇りとなっています。今現在、私はニューヨークに住んでいます。その前は東京とパリの往復だったのですが、ミュージカルプロジェクトの話を受賞アメリカに移住することになりました。

言葉の壁や考え方の違いなどで大変な事も沢山ありますが、「好き」な仕事、健康な身体、そして人として優しくある事……の三つがあればおそらくどんな大変なことも乗り越えて学園発展のために力を尽くしてまいります。今後ともよろしく願っています。

て学園発展のために力を尽くしてまいります。今後ともよろしく願っています。

人はいっだって

何者にもなれる



高63回卒
山本 遥

私は11年前に純心高校を卒業し、現在、3人の子供を育てながら会社経営をしている29歳の母です。一見するとすごい人のように思えるかもしれませんが、一番上の子供は小学校三年生で、20歳の大学生時代に授かった子供です。何者でもなかった私が、何者かになりたいくて必死に生きた20代の経験を少しお話させていただきます。

子供を授かる前までの私は、人の目を気にするあまり個性を出さず、みんなと同じが一番安心という感覚を持つどこにいても普通の女の子でした。しかし、そんな毎日に終わりを告げたのが突然の妊娠です。正直なところ、当時の私は「嬉しい」という気持ちより「人生が終わった」という気持ちの方が大きかったのです。それは、普通であることに囚われていたため、変化を受け止めることが容易ではなかったからです。私がこれからどんな人生を歩んでいき

越えられると信じて日々過ごしています。

途上国支援

私のライフワーク



純心短大保育科33回卒
シュルツ 八坂 由美

「子どもが好き」、「音楽にも携わりたい」、純心短大保育科に入ったのは、どちらかと言うとそんな単純な理由でした。本当は4年大学に行きたかったところ(当時純心は短大まで)、様々な都合でそれが難しく、最終的に三ツ山に通うことになりました。10代後半の多感なあの頃、真面目に勉強した記憶は余りなく、友達と遊びに始どのエネルギーを費やしていました。卒業できたのは友達のお陰でしかありません。

卒業後、保育の仕事には就いていません。教育実習で長崎市内の幼稚園に行き、今言うモンスタースペーレントのような存在に遭遇し、幼稚園や保育園が命を預かる場所であることを痛感させられたためです。自分に精一杯の中、他人の命まで預かることはできない。卒業後に幼稚園や保育園に就職し、その後20〜30年も勤めている同級生を見ると、本当に頭が下がる思いです。

卒業して数十年、私は殆どの時間をアジアや大洋州の開発途上国で

た、いのかを自問自答した結果、「この奇跡と共に歩んでいきたい。」という強い意志が生まれました。そしてその瞬間、20年間破れなかった私の殻が破れ、「本当の私」としての第二の人生が始まりました。

3人目を妊娠中の26歳の私は、「母親」であること以外何者でもない自分自身と葛藤していました。私には私の人生があるように、子供には子供の人生があります。私自身が自立して生きていけるように、高校生の頃からの夢であった「誰かを支える仕事」と「大好きな長崎を盛り上げたい」という思いが交錯し、社会保険労務士として長崎の経営者の方々の良き相談相手になりたいという新たな目標ができました。難関資格のため成し遂げることは容易ではありませんでしたが、3人目を出産した次の日も病室のベッドの上で勉強をしていたほど、何者かになりたいくて必死だった私は、その年に啖られて試験に合格しました。

そして現在、勤務経験を経て、この春開業する運びとなりました。人手不足が深刻化している長崎において「ここで働きたい」と今を生きる子供たちに思ってもらえる会社でいっばいになるよう、経営者の方々と企業にかかわる全ての人を大事にしながら一つずつ課題に取り組んでいます。これから先にどんな困難が待ち構えているようにも、強い意志と行動力を武器にした今の私ならきっと大丈夫です。大切なことに気づかせてくれた小さな命に感謝し、私は今日も私らしく生きていこうと思います。

名誉教授

長崎純心大学は大学に功績があった先生方に名誉教授の称号が贈られます。

2023年5月27日授与

本田 利光先生 鈴木千鶴子先生
青山 キヌ先生 山内 清海神父様
平湯 文夫先生 山口 康子先生



2024年6月29日授与

片岡瑠美子先生 濱田 洋子先生
古賀 義先生 山脇 美代先生
岩下 康夫先生 畠山 均先生



決算報告

令和3年度～5年度

◆収入

入 会 金	20,490,000 円
利 息	185 円
バザー収益金	9,300 円
雑 収 入	0 円
前年度繰越金	8,180,067 円
合 計	28,679,552 円

◆支出

入会記念品代費	2,286,600 円
会 誌 費	2,748,876 円
会 議 費	93,677 円
通 信 費	364,950 円
交 通 費	370,000 円
支部活動費	760,000 円
人 件 費	1,189,000 円
事 務 費	27,343 円
渉 外 費	418,710 円
慶 弔 費	13,078 円
備 品 費	5,844 円
雑 費	9,336 円
総 会 費	29,150 円
バ ザ ー 費	0 円
助 成 金 費	550,500 円
行 事 費	95,517 円
光 熱 費	0 円
マグダレナ基金	8,000,000 円
小 計	16,962,581 円
次年度繰越金	11,716,971 円
合 計	28,679,552 円

◆次年度繰越金（収入－支出）

収入	28,679,552 円
支出	△16,962,581 円
次年度繰越金	11,716,971 円

マグダレナ基金決算報告

令和3年度～5年度

◆収入

前年度繰越金	6,604,093 円
利 息	159 円
一般会計より	8,000,000 円
合 計	14,604,252 円

◆支出

大 学 へ	3,000,000 円
高 校 へ	1,500,000 円
合 計	4,500,000 円

◆次年度繰越金（収入－支出）

収入	14,604,252 円
支出	△4,500,000 円
次年度繰越金	10,104,252 円

あの先生は今

懐旧と純心への想い

松田 和夫先生

懐かしき純心。奉職した年から数えるともう半世紀が経ちます。時は容赦なく過ぎ去り、思い出はまさに走馬灯のように脳裏をめぐります。校門までつづくあの桜並木。狭い校庭でのあの聖母行列、運動会。純心バザーのアップルパイ。聖堂（おみどう）朝礼、朝の放送朝礼での江角先生のあの声。着替えをとしての教室掃除。懐かしき先生方、そしてなによりも卒業生の皆さん。そう、在籍時に7・23の長崎大水害もありました。今はもう、すべてが懐かしいセピア色の画像の中に溶けていきます…。

いつでしたか、新しい校舎となった純心を訪ねたことがありました。昔の面影はすっかり消えてなくなり、わずかにオハラ館が当時の姿を今に留めていました。そして、校墓の聖母マリア像。それにしても、職員室があった校舎の傍らに立っていたあの泰山木（たいざんぼく）

「夕暮れの泰山木の白花はわれの嘆きを覆ふがごとし」と齋藤茂吉が詠んだ、あの泰山木の姿もすでになく、寂しい思いではありました。もちろん、在職当時、ただ嘆きの時ばかりを過ごしたわけではなく、喜びの時もあったのです。そして、その日々を、あの白い大きな花びらが見おろしていたに違いなかったのですが。

古希を越えた今、自分が教役者の身になっていることを思うとき、純心で過ごした日々は、神さまの種が蒔かれていたことを思わないでは

いられません。殊に、松下ミネ校長先生との出会いに導かれ、江角ヤス学園長先生との出会いが備えられていたことは、まことに人の思いにすぎたる神さまの御心と思われています。

在職時のいつでしたか、三ツ山での練成会の時、江角先生から旧いご本をいただいたことがありました。『キリストに倣いて』、なんと、本の表紙には、『基督模倣』（昭和21年刊）とありましたが、今にして、それは大切な宝となっています。

（若き日の江角先生がキリスト教信仰へと導かれたのがこの著によるといいます）

純心のこれからに思いを馳せる時、その行く道は、初代校長江角ヤス先生の生涯にわたって顕されたキリスト教教育精神をにおいて他にはないと思われま。そして、それは江角先生の「ご遺訓」（『追慕の記』）の中に示されてあるものでしょう。時代の様相がいかに変わっていくとしても（激変ともいうべきものですが）、変わらないものがある。不変の、そして普遍の、人間を真に生かす神さまの御心にあって施さるべき教育の業こそ、まことの人間教育であるということではないかと。そのような思いに誘われる昨今です。

最後に、これからの純心の行く道に、また、卒業生の方々お一人お一人の生涯に、神さまの祝福が幾重にも増し加えられんことをお祈りいたします。

1976年～1992年国語科在籍
現在 福岡有田バプテスト教会牧師

元長崎純心大学人文学部長
元医療福祉・連携センター長

潮谷 有ニ先生

この度、原稿執筆の機会を与えてくださった野濱玲子会長をはじめ、純心同窓会の皆様に深く感謝いたします。

現在、私は、自分が幼少期から高校卒業までの間を過ごした熊本市内の社会福祉法人慈愛園の理事として、また、当法人が経営する養護老人ホームとケアハウスの施設長として、社会福祉実践に取り組んでいます。当法人の職員の中には、長崎純心大学（以下、「純心」という。）の卒業生も含まれており、その多くが当法人の中核的な専門職として、福祉サービスを必要としている児者の心強い支えになっています。

さて、私は、故一番ヶ瀬康子先生のお誘いを受けて、1998（平成10）年4月に現代福祉学科の社会調査系科目や実習・演習系科目を担当する専任講師として採用されました。そして、2020（令和2）年3月に退職するまでの20年以上を純心で過ごしました。その間、2002（平成14）年4月から2008（平成20）年3月までは、厚生労働省社会・援護局の社会福祉専門官として、様々な法制度改正等にも従事しました。その後、再度、純心に戻り、2013（平成25）年10月からは、医療・福祉連携センター長として、純心と長崎大学医学部との連携事業による医療と福祉の多職種連携教育に取り組み、2018（平成30）年4月からは、当時の片岡千鶴子理事長と片岡瑠美子学長のリーダーシップのもと、人文学部長として地方創生特待制度の創設や全学科男女共学化等をはじめとする様々な大学改革に取り組みました。

純心での経験は、私にとって多くの宝物になっています。特に、カリシズムに立脚した「知恵のみちを歩み 人と世界に奉仕する」という建学の精神は、教育研究に従事する者として、また、福祉分野に従事する者として、その具現化を如何に為すべきかという自分自身への問い

かけとして、今も生き続けています。

そして、もう一つの宝物は、ゼミや授業を通して共に学んだ学生達です。ゼミ生については、最初の卒業生が出た年から、毎年、潮谷ゼミOG会（以下、「OG会」という。）を開催し、現役のゼミ生と卒業生とが学び合い、親交を深めてきました。OG会をきっかけに就職や転職をしたゼミ生も少なくありません。本年12月に長崎市内で開催するOG会には50名以上が参加する予定になっています（写真は、本年6月に開催したOG会幹事会の時に撮影したものです）。また、現在でも私が関わりを持っている社会福祉法人南高愛隣会や長崎県福祉行政関係の仕事を通して、純心の卒業生達の活躍を目にしたり、耳にしたりすることが多々あります。そのような時、私は、専門職として問題意識を持ち、真摯に仕事をしている卒業生達の姿の中に、建学の精神と学園標語である「マリアさま いやなことは 私がよこんで」ということが福祉の実践として実っていることを実感しています。これが純心教育の成果であり、宝となって、長崎の福祉を支えているのだと確信しています。

少子高齢化という厳しい現実の中で、変えるべきものは変えて行かねばなりません。しかし、変えてはならないものは堅持しなければなりません。それを峻別するためには、知恵のみちを歩み続ける必要があります。そのことが長崎県唯一のカトリック大学として、将来にわたって、人と世界に奉仕する人材を育成する純心教育に求められていると言っても過言ではないでしょう。



役員のご紹介

役員

会 長 野濱 玲子(保 33 回卒・現福 6 回卒)
副会長 馬場あゆみ(高 31 回卒)
書 記 深堀 章子(現福 2 回卒)
会 計 田北 千織(保 29 回卒)
松岡 智子(保 41 回卒)
監 査 ⑨田口 信子(保 33 回卒)
⑨玉利 典子(社 34 回卒・現福 7 回卒)

理事

佐藤久美子(高 26 回卒) ⑨尾上 敦子(高 29 回卒)
若松 和恵(保 38 回卒) ⑨田川眞由美(保 31 回卒)
吉田 幸子(現福 6 回卒) ⑨江 真奈美(保 35 回卒)
鹿山 誉史(現福 19 回卒) ⑨岩永由起子(社 40 回卒)
古賀 健司(現福 19 回卒) ⑨掛屋 恵美(社 41 回卒)
⑨居村めぐみ(保 49 回卒)

純心同窓会 会則改正	条項	内 容	旧会則	新会則
	第8条	役 員	副会長2名 書記2名	副会長2名程度 書記2名程度

純心女子学園リサイクル募金



純心マッチ基金



上記に関するお問い合わせは純心女子学園 財務課・経理課 TEL 095-846-0084 (代表)

お願い

小田春子先生のお墓について情報を集めています。
当時先生は「波の平工場」に生徒を引率して出勤しておられましたが、当日は午後出勤で、城山の自宅で準備しているときに被爆されました。1週間後、城山の防空壕で亡くなられたことが記録にあります。
来年被爆80周年を迎えますが、小田先生のお墓がどこにあるのかわかりません。小田先生について些細なことでもいいので、ご存知の方がおられたら教えて下さい。

理事長 山田 幸子

住所変更届について

結婚、転勤、就職その他で、住所や氏名、電話番号に変更があった場合は必ず下記へご連絡下さい。

編集後記

原稿依頼をされた方々には快く引き受けて頂き、感謝の気持ちで一杯です。また、「純心」の表題は毎年原爆死没者名簿を書いて下さっている森田孝子さん(社18卒)に書いて頂きました。また皆様とお元気に会う日を楽しみにしております。今号から経費削減、時代のニーズに応じたペーパレス化、コロナ禍のため封入等の集合作業が難しいとの理由で、年代を分けて会報誌発送とホームページでの掲載に替えさせて頂きました。ご理解のほどよろしくお願い致します。



純心同窓会 会報
第37号 令和6年9月発行

純心同窓会室 〒852-8558 長崎市三ツ山町235番地
同窓会室: TEL.095-846-3834 FAX.095-846-3834
水・金 10時から14時在室

今後はホームページ
にも会報や活動内容
を掲載していきます。



純心同窓会ホームページはこちらから↑